

Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名: 貿易統計(2006年7月)

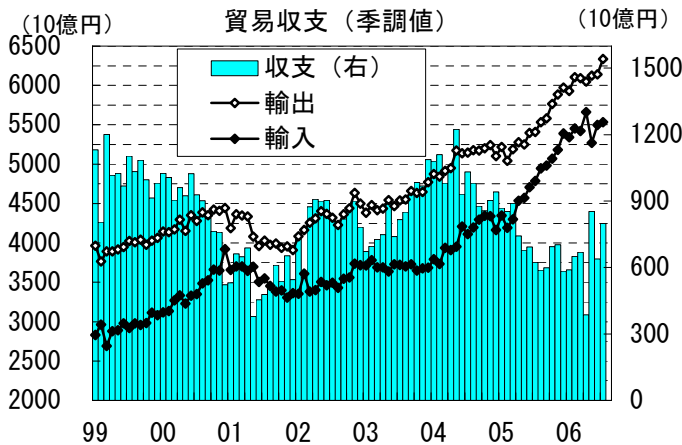
発表日2006年8月23日(水)

～対米輸出はひとまず持ち直したが、先行きは減速の公算～

第一生命経済研究所 経済調査部

担当 副主任エコノミスト 長谷山 則昭

TEL : 03-5221-4525



(出所: 貿易統計・財務省)

(10億円)	季調値			原数値
	貿易収支	輸出	輸入	貿易収支
05年7月	624	5410	4786	862
8月	587	5534	4947	103
9月	599	5582	4982	949
10月	694	5764	5069	818
11月	703	5884	5181	594
12月	583	5974	5390	908
06年1月	589	5931	5342	-354
2月	650	6105	5455	947
3月	668	6091	5423	968
4月	386	6048	5662	650
5月	854	6124	5271	381
6月	639	6139	5499	807
7月	800	6335	5535	860

(出所: 貿易統計・財務省)

(前年比、%)

	輸出金額	輸出価格	輸出数量指数				輸入金額	輸入価格	輸入数量指数			
			全体	対米	対EU	対アジア			全体	対米	対EU	対アジア
05年7月	4.3	5.1	▲ 0.8	▲ 1.1	▲ 3.1	▲ 4.5	11.9	12.6	▲ 0.6	7.5	▲ 4.8	▲ 1.2
8月	9.1	6.7	2.2	3.1	▲ 2.1	1.3	21.5	11.4	9.1	9.2	6.6	12.5
9月	8.8	7.4	1.4	3.5	▲ 3.3	▲ 2.9	17.6	13.3	3.9	5.0	4.8	3.7
10月	8.0	5.5	2.4	3.8	▲ 1.7	▲ 1.4	17.9	15.3	2.3	▲ 13.9	0.5	7.3
11月	14.7	7.6	6.6	4.7	▲ 0.7	4.3	16.7	19.3	▲ 2.1	▲ 2.3	▲ 1.0	0.3
12月	17.5	10.6	6.2	6.4	▲ 1.9	3.4	27.4	24.8	2.1	10.8	▲ 1.2	3.8
06年1月	13.5	5.6	7.5	12.2	4.4	▲ 1.1	27.0	18.7	6.9	2.6	0.2	10.0
2月	20.7	5.3	14.6	8.5	1.6	15.9	30.3	23.7	5.4	6.9	5.7	3.9
3月	18.0	6.2	11.1	8.0	5.7	12.1	25.3	20.3	4.2	▲ 7.0	0.6	8.0
4月	11.3	4.7	6.3	8.7	▲ 0.2	6.7	20.2	14.7	4.8	▲ 15.2	▲ 2.1	11.2
5月	18.9	6.6	11.6	15.1	8.1	15.2	18.0	13.1	4.4	5.4	2.8	9.1
6月	14.5	5.3	8.7	2.5	9.3	8.0	18.3	13.4	4.3	▲ 0.2	▲ 3.8	9.5
7月	14.2	7.8	5.9	6.2	1.1	6.5	16.8	12.3	4.0	▲ 6.4	2.1	10.9

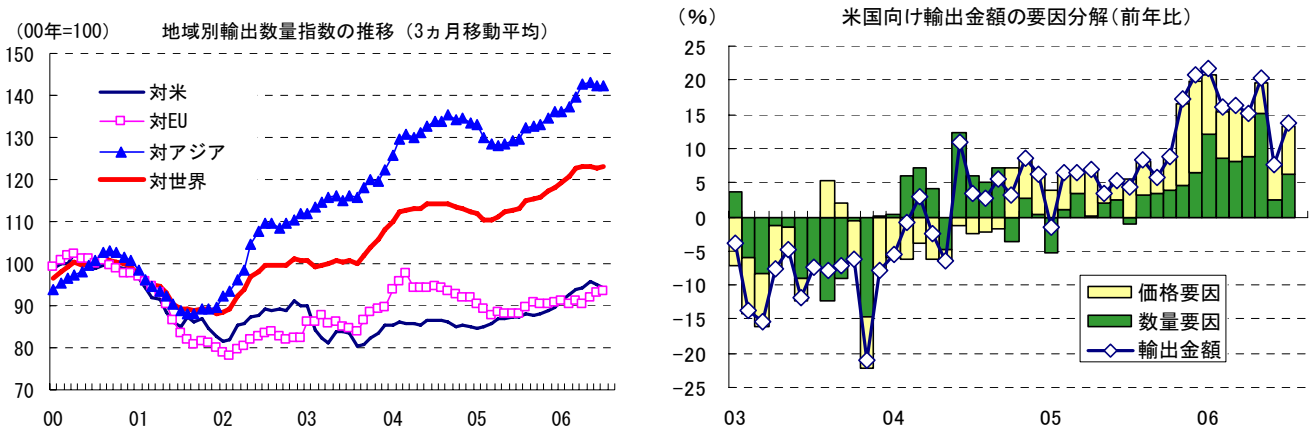
○ 7月の貿易黒字額は前年比▲0.2%と減少

7月の貿易収支は8,600億円(原数値)、前年比▲0.2%と減少した。原粗油の押し上げ寄与が縮小したことから輸入金額は前年比+16.8%(前月同+18.3%)と前月から小幅伸びが鈍化した一方、輸出金額は前年比+14.2%(前月同+14.5%)と前月とほぼ同水準となった。輸入金額の伸びが輸出金額の伸びを上回っており、2ヵ月連続で前年比マイナスとなったが、貿易黒字額の減少幅は縮小した。

○ 懸念されていた対米輸出は持ち直し

輸出を数量ベースで見ると、前年比+5.9%(前月同+8.7%)と伸び率が鈍化した。地域別にみると、米国向け(同+6.2%←前月同+2.5%)、アジア向け(同+6.5%←前月同+8.0%)、欧州向け(同+1.1%←前月同+9.3%)となった。米国向け輸出は、前月に急減速したことなどもあって米国の景気減速の影響が懸念されていたが、7月は持ち直していることから、足もとまでに関してはそれほど大きな悪影響は

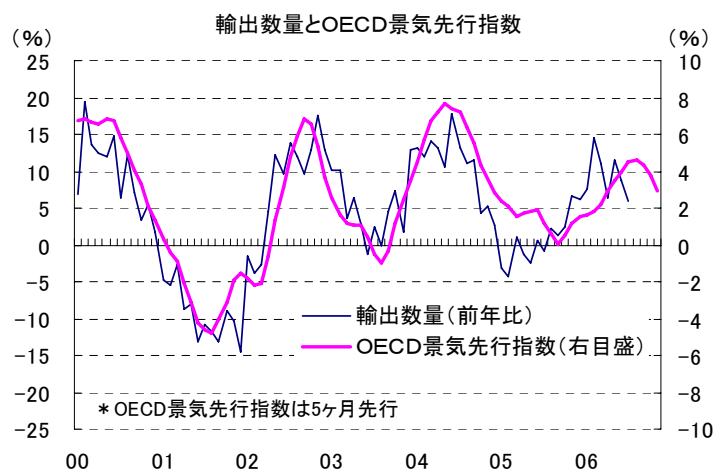
出ていないと考えられる。対米輸出の伸びが高まったのは、自動車向け輸出の増加ペースが再び拡大したことが主因である。対米輸出では自動車向けウエイトが大きいから先行きも堅調に推移すると考えられる。アジア向けは、対ASEAN輸出では景気が減速していることから自動車輸出等が振るわないものの、対中輸出などでは非鉄金属や鉄鋼といった素材関連が引き続き増加している。EU向けについては大きく減速したが、このところ好調に推移していた自動車輸出の伸びが鈍化したことが大きな要因となった。また、対米輸出、対EU輸出では映像機器の輸出がともに減少しているが、これはW杯終了に伴う薄型テレビ等の輸出が減速したと考えられる。このことも輸出数量の伸びを抑制した一因である。対米輸出が持ち直すなど輸出は総じて堅調に推移していると判断できるが、数量ベースでは伸びが鈍化傾向となっており、輸出の拡大モメンタムは一服感が出てきた。



○ 先行指標からは輸出の減速が示唆されるが、大幅な落ち込みは回避

米国では景気の減速が鮮明になってきていること、輸出の先行指標であるOECD景気先行指数がピークアウトしていること等を踏まえると、輸出の増加ペースは鈍ってくる公算が大きい。ただし、米国景気が腰折れる可能性は低く、中国における金融引き締め策も景気を失速させるには至らないと考える。輸出は増加テンポが鈍化するものの先行きも底堅く推移する見込みだ。一方、輸入に関しても緩やかながらも拡大傾向が続く可能性が高い。雇用・所得環境の改善に伴う個人消費の回復や成長期待の改善を背景とした設備投資の増加などの国内需要の回復により、輸入も増加傾向を辿ると判断する。

貿易収支については、当面、一進一退となることを想定する。輸出金額については、上述のように米国景気の減速に伴って増加テンポが鈍化してくるとみられる。また、輸入については数量ベースでは堅調に推移するものの、輸入金額を大幅に押し上げている価格面からの押し上げ寄与は原油価格がさらに上昇していかなければ徐々に剥落してくると考えられる。貿易収支は原油価格の動向や米国景気の減速のペースなどに左右されやすい展開となりやすい点には留意が必要である。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

